

## 中国における人工知能を用いた与信業務の展開とその影響

京都先端科学大学 李立栄

人工知能が多くの産業において今後のイノベーションの重要な鍵として大きな期待を集めているが、それはビッグデータの活用と表裏一体の関係にある。中国の人工知能を用いた与信業務の展開を可能にしたのは、先行して蓄積された膨大なデータの有効な利用があったためである。中国のパーソナルファイナンス分野におけるフィンテックのサービスでは、利用者の電子決済情報のみならず、取引履歴や様々なデジタルフットプリントといった、物流や商流におけるパーソナルデータを収集し、人工知能を活用してリアルタイムで信用評価を行い、そのスコアリングを貸出や様々な非金融サービスにまで活用されている。

本研究では、中国での人工知能を活用したデータ分析型融資の広がりを中心に事例を調査し、金融サービスにおいて人工知能がどのように位置付けられているのか、非金融取引データの活用がスコアリングの精緻化にどの程度貢献しているのか、金融包摂にどのような効果がもたらされたのか、個人データに関してどのような規制がなされ、フィンテック企業はどのように対応しているのか、などの事実を明らかにする。

わが国において人工知能の応用は、電子商取引や SNS にとどまらず、金融サービス分野でも広がりを見せている。金融分野での人工知能に関する論文は、実装の方法論に関していくつか存在する。しかしながら、金融ビジネスにおける人工知能の活用が金融システムや金融サービス提供者の経営に与える影響等について言及したものは、日本語文献ではほとんど見当たらない。また、金融包摂に関しては、世界銀行が毎年データを公表しているものの、それらは銀行預金・銀行からの融資に基づくデータであり、近年の中国のフィンテック企業のような非金融機関が提供するサービスは含まれていない。本研究は、中国における非金融機関による金融サービスを研究対象としており、今後のフィンテックの可能性や金融制度設計を考察するうえでも有益であると考えられる。

本報告では、中国のフィンテック業界をリードするアリババグループの人工知能を活用したパーソナルファイナンス分野での取り組みを中心に紹介する。また、同グループが展開する第三者決済サービスである「アリペイ」が広範な業務と連携が可能であった背景について考察するとともに、このような人工知能の活用から得られる未来の金融ビジネスの姿や日本の金融ビジネスへの示唆を論じる。

キーワード：中国のフィンテック、人工知能 (AI)、ビッグデータ、金融イノベーション